

**横浜市立上星川小学校**  
平成30年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

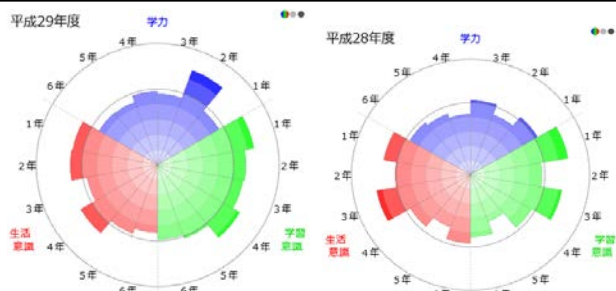
### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○学校教育目標を実現するために、活力と魅力にあふれた学校作りを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着と思考力・表現力および対話力・実践力の向上を図り、ねらいが明確な分かりやすい授業を展開します。</li> <li>・よりよい人間関係作りに取り組もうとする自主的、実践的な態度を育てるために、特別活動・道德教育の充実を図ります。</li> <li>・道德、児童会活動の充実を図り、児童自らがいじめのない学校づくりに取り組む態度を育てます。</li> <li>・学校便りやホームページを活用し、地域との連携を図り、地域の人材、施設を活用した学習や体験活動に取り組めます。</li> </ul>

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<b>確かな学力 (学習指導)</b>	算数の技能に特化し、技能の基礎基本の力が定着・向上できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のねらいを明確にし、子どもが授業内で理解し、基礎・基本の力が定着するようにする。</li> <li>・算数の思考力が高まるよう、基本的な計算や考え方が定着できるように朝学習の時間や宿題を充実させるようにする。</li> <li>・習熟度別の授業を行い、子どもの進度に合わせて理解度を深められるようにする。</li> </ul>
担当	学力向上	

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



28年度と比較すると、平成29年度の学力はやや向上した。しかし、横浜市の平均と比較すると、平均を上回る学年は少ない。学習意識が平均を超える学年が多く、生活意識も平均付近の学年が多い。

今年度は重点研が算数科を研究するため、学力向上につなげるために、算数の技能の力に特化して取り組むようにする。技能面の基礎基本を理解することで、学力向上につなげていく。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に平均を下回っている。特に読む力や書く力、話す聞く力が課題。
- 算数科：知識・理解で平均を上回る学年もあるが、数学的な考え方が全体的に下回っている。
- 社会科：全体的に知識・理解が平均を上回っているが、技能や思考の力が課題。
- 理科：知識・理解の観点に比べ、技能や思考・表現の観点において課題がある学年が多い。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習意欲は全体的に高く、授業を見てみても、児童自ら進んで発表をしたり、黒板に書かれている内容をノートに書いて理解しようと努めたりする姿勢は見られる。

しかし、教科によっては知識・理解の力が未熟で、それによって思考する力も未熟な教科が見られる。今年度は算数科の技能面を中心に高めていくことにより、算数科の基礎基本をより定着させることへとつなげていく。

### 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

#### 1 学年

- 数と計算における加法・減法が用いられる場合とそれらの意味をとらえるために、具体的な場面を設定したり、具体物を使ったりして、学習課題を身近なものとしてとらえられるようにする。
- 家庭学習では、計算問題を中心にプリントで反復練習を続け、基礎基本の定着を図る。
- 朝学習では、ドリルやはまっこ学習ドリルを活用して基礎・基本の定着を図り、学んだことの理解が深まるようにする。

#### 2 学年

- 具体物を用いたり、具体的な場面を設定したりすることで、加法や減法、かけ算九九の理解を深めて技能の定着を図る。
- 家庭学習では、計算問題を中心にドリルやプリントなどで反復練習を行って学習の定着を図る。間違った問題は、直しまでしっかりと行い、計算力を高めていく。
- 朝学習では、ドリル学習を中心に繰り返し取り組み、基礎基本の定着を図る。

#### 3 学年

- 長さや重さの学習では、算数的活動の時間を大切にして、豊かな感覚を養い、理解を確実にした上で技能の定着を図る。授業で学習した内容の習熟として家庭学習を位置づけ、毎日繰り返す。
- 本時につながる復習としての朝学習を計画的に行い、学習の理解を深められるようにする。
- 「わり算」の単元では、前年度までの不足している内容を補う単元計画を作り、クラス内習熟度グループを作り、効果的な指導をしていく。

#### 4 学年

- 数と計算領域、量と測定領域等は少人数で行い、図形関係や数量関係の領域は算数T・Tで指導していく。個に応じた丁寧な指導で学習の理解度を上げていく。
- 家庭学習では、その日に学習した内容の復習となる算数プリントを毎日1～2枚課し、学習内容を徹底的に定着させる。
- 朝学習では、算数スキルを解き、基礎基本の定着を図る。個別指導で理解できるまで指導する。

#### 5 学年

- 授業に対し、主体的に取り組むことができるように、毎時間のねらいや目的、身に付けさせたい力を明確にする。
- 既習内容の算数プリントなどで復習をし、基礎基本の定着を図る。同時に、漢字練習と日記を毎日の家庭学習として定着させ、書くことへの抵抗感を減らす。
- 朝学習では、ドリル学習を反復、継続することで基礎基本の確実な定着を図る。

#### 6 学年

- 朝学習の際には、計算スキルや算数のプリントに取り組み、既習事項の復習に取り組む。
- 対称な図形を中心に、コンパスや定規を使い、円や多角形を正確に描く宿題を子どもに出し、定着を図る。
- 分数のかけ算、わり算を学習する際には、習熟度別に学年を分け、授業に取り組むことにより、分数の大きさの概念、計算方法、約分などの基礎基本の定着を図る。

#### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づいた学習指導を行い、日常生活に必要な計算力や語彙などのスキルを身につけ、活用する場面を位置付ける。
- 家庭でも一定時間学習する習慣を身につけるため、毎日、計算問題や音読、漢字練習などの課題に取り組む。また、学校で学習した内容を家庭で復習することで、学習内容の定着を図る。
- 朝学習では、当該学年の課題や発達段階に応じた課題に取り組み、日常生活に必要な語彙やスキルの定着を図る。